

水産試験場が実施しているニシン漁獲物調査において得られた情報について、随時お知らせいたします。

石狩湾漁協石狩地区と厚田地区の青年部が、3月25日と3月26日にそれぞれ実施しました「ニシン漁期終了後試験調査」の結果をとりまとめました。石狩・厚田地区では6種の目合（1.6寸，1.8寸，2.0寸，2.1寸，2.2寸，2.3寸）を用いてニシンの試験操業を行いました。

【結果】

採集状況(右表)

今年度も両地区ともに、分析に十分なデータを得ることができました。石狩地区では2.0寸目と2.3寸目による漁獲が多く、厚田地区では1.8寸目の漁獲量が最も多く目合が大きくなるにつれて少なくなりました。

表 採集物の内訳

		目合	1.6寸	1.8寸	2.0寸	2.1寸	2.2寸	2.3寸
石狩 3月25日	漁獲重量(kg)	6.0	14.5	21.5	14.8	7.9	20.6	
	漁獲尾数	34	63	85	52	26	79	
	平均尾叉長(mm)	258	279	285	295	299	287	
	平均体重(g)	176	231	252	287	308	261	
厚田 3月26日	漁獲重量(kg)	-	55.0	43.0	35.0	13.0	-	
	漁獲尾数	-	246	185	136	47	-	
	平均尾叉長(mm)	-	278	282	289	292	-	
	平均体重(g)	-	223	232	257	276	-	

魚体と年齢(下図)

漁獲の中心となったのは、3年魚（2016年級）と4年魚（2015年級）に加えて、例年この時期には見られない5年魚（2014年級）でした。昨シーズンから引き続き漁獲をけん引してきた2014年級ですが、現在も依然として多く来遊しているとみられます。一方、2年魚はほとんど漁獲がありませんでしたが、産卵期が全体的に遅れていることによる影響と考えられます。

成熟状態

漁獲物の成熟状態は、雌雄とも完熟個体がほとんどを占めており、ヌケ（産卵後）個体は数個体しか確認されませんでした。したがって、漁期は終了しましたが、今後も前浜に2年魚および3年魚の来遊が続く可能性があり、今後の小定置などによる混獲にも注意が必要です。

今回の漁期後調査によって、今シーズンの完熟の遅れによって産卵期が後ろにずれる形となり結果的に2年魚（2017年級）の大半と3年魚（2016年級）の多くが次年度以降の資源として獲り残されたことがわかりました。また、2.0寸目以上の目合制限を基本として、今シーズンに最も多くの来遊が見られた石狩地区において漁期を早期に切り上げたことによって、産卵親魚の保護と次世代の再生産の確保につながったと考えられます。来年は2016年級が4年魚として2月盛漁期の中心となっていくことや、稚魚調査で過去最高の採集尾数を記録した2017年級の豊度にも期待が高まるところですので、今後の各種調査の結果を見守っていききたいと思います。

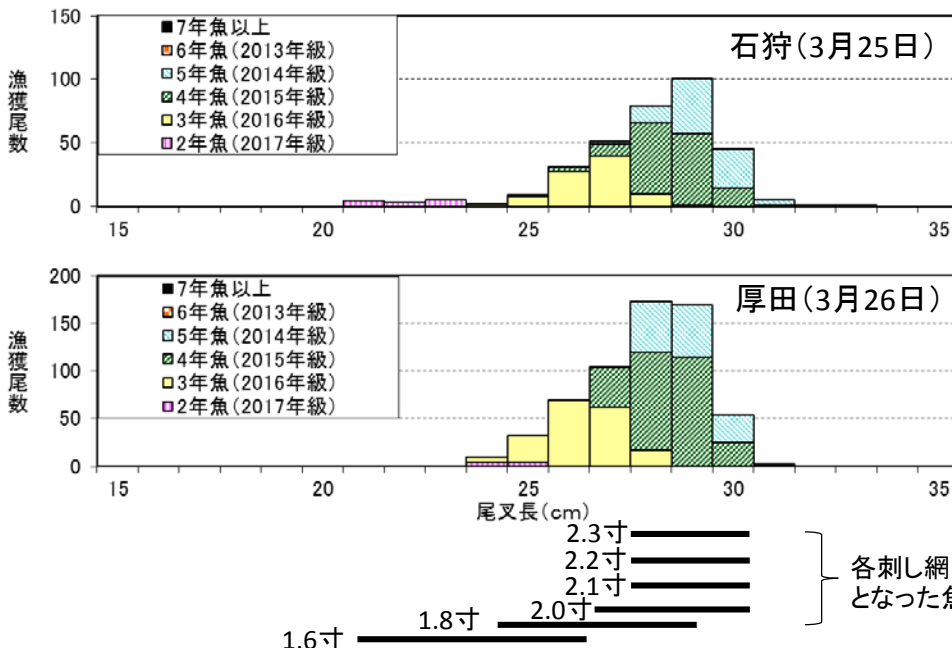


図 平成31年3月25日,26日 石狩・厚田地区 年齢別尾叉長組成